令和2年度版

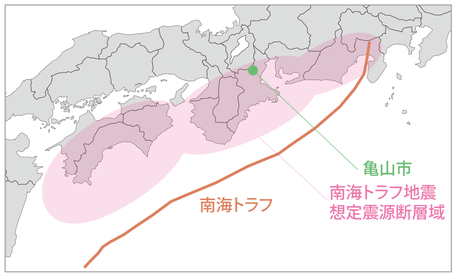
地震ハザードマップ

ゆれやすさマップ・液状化危険度マップ

「**亀山市地震ハザードマップ**」は、今後亀山市で地震が発生した場合に想定される揺れの大きさ（震度）や、皆さんの暮らしに深刻な影響を及ぼす可能性のある液状化の危険度をマップとして示したものです。
「**わたしの防災マップ**」に記載されている「地震災害の対策」とあわせ、日頃から地震に備えてください。

亀山市

海溝型地震（南海トラフ地震）



南海トラフは日本列島が位置する大陸のプレートの下に、フィリピン海プレートが南側から年間数cmの割合で沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。

南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する巨大地震が発生しています。現在、昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年以上が経過し、次の巨大地震発生の可能性が高まってきています。

発生する確率
30年以内に
70～80%

■ 被害想定（県・亀山分）

平成25年度の三重県の被害想定調査によると亀山市では下記の被害が想定されています。

南海トラフ地震（理論上最大時）

最大震度	6強	帰宅困難者数	6,600人
建物全壊・焼失数	約1,400棟	負傷者数（うち重症者数）	約900人 約100人
死者数	約80人	災害廃棄物発生量	約100,000t
建物倒壊による自力脱出困難者死者数	約300人	孤立集落の可能性	0

？ マグニチュードと震度の違い

マグニチュードは地震の規模そのものを表したもの、震度はある地点での揺れの強さを表したものです。震源地から遠ければ震度は小さな数字になります。
しかし、マグニチュードの数字は変化することはありません。

裏面にはあなたの町とその周辺にある指定避難所や指定緊急避難場所（一時避難場所）が掲載されています。地震発生時の避難先を事前に確認し、避難に役立てましょう。

南海トラフ地震

あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定した理論上最大想定モデル

ゆれやすさマップ

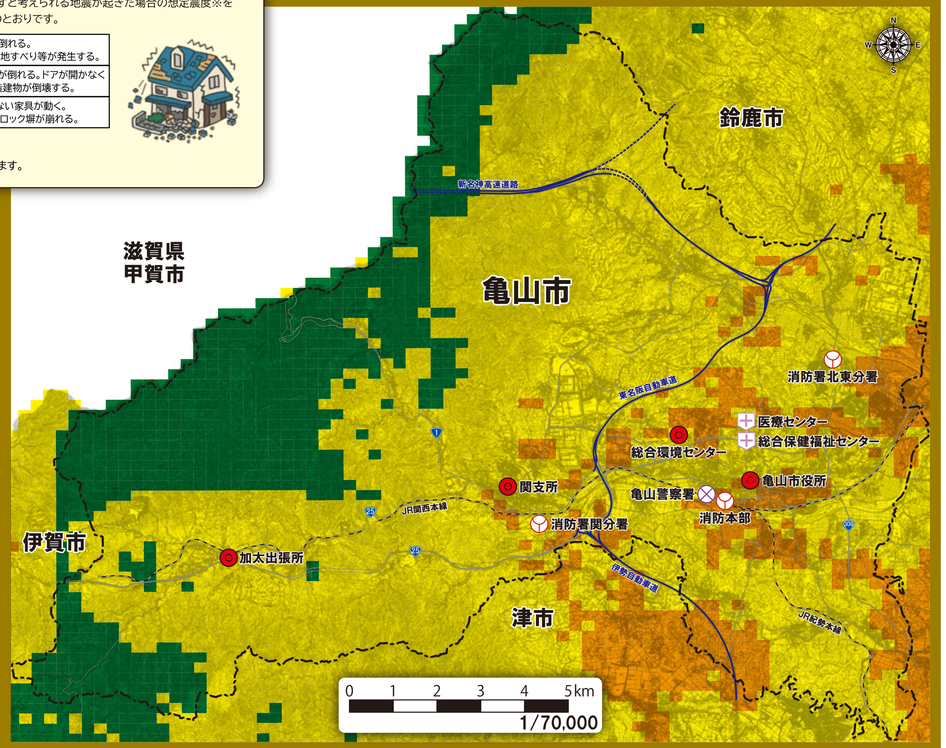
地震が発生した場合の震度（揺れの大きさ）は、地震の大きさや地盤の固さなどの条件により変わります。
「ゆれやすさマップ」は、今後亀山市にも大きな被害を及ぼすと考えられる地震が起きた場合の想定震度※を表すものです。震度の大きさによる揺れや被害の目安は以下のとおりです。

震度6強	はわないと歩けない。固定していない家具の多くが倒れる。耐震性の低い木造建物の多くが倒壊する。大規模な地すべり等が発生する。
震度6弱	立っていることが困難。固定していない家具の一部が倒れる。ドアが開かなくなる。壁のタイルやガラスが破損。耐震性の低い木造建物が倒壊する。
震度5強	ものにつかまらないと歩くのが難しい。固定していない家具が動く。棚にある食器や本が落下する。補強されていないブロック塀が崩れる。

※「気象庁震度階級関連解説表」に基づき作成しています。
様々な条件により、想定よりも強い揺れが起こる場合もあります。

震度階級
- 6強
- 6弱
- 5強

地図記号の説明等
- 市庁舎
- 警察署
- 消防署
- 病院
- 行政界
- 鉄道
- 主要道路（国道・県道・主要地方道）
- 高速道路
- トンネル

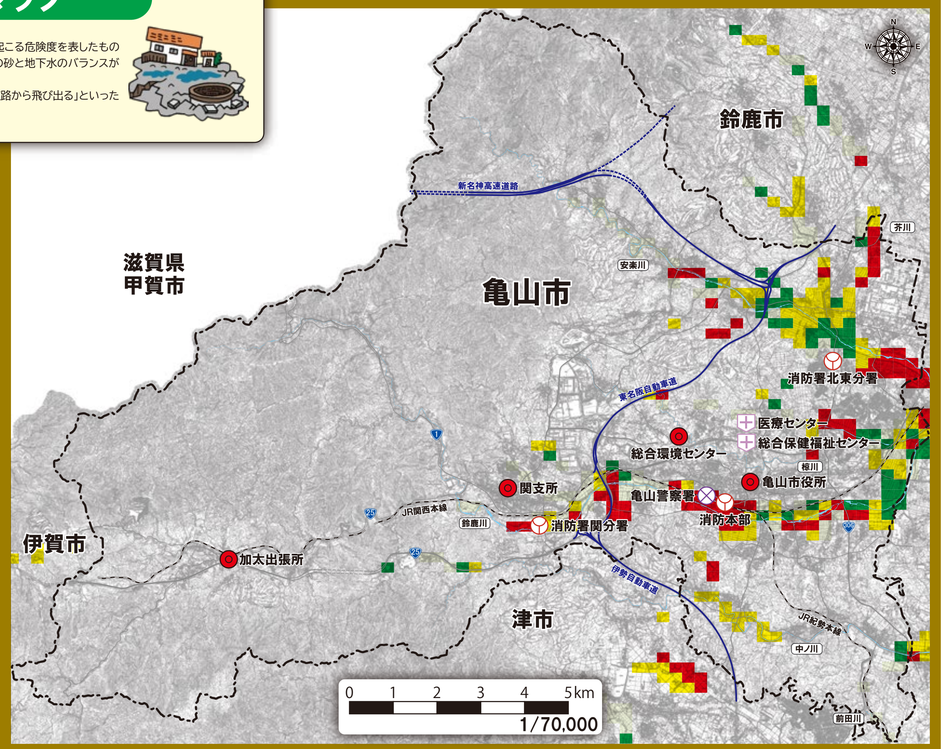


液状化危険度マップ

「液状化危険度マップ」は、地震が起こった際に「液状化」が起こる危険度を表したものです。液状化とは、地震発生時の強い揺れによって、地盤の下の砂と地下水のバランスが崩れて地表面が液体のようになる現象です。
液状化が起こると、「建物が沈んで傾く」「マンホールなどが道路から飛び出る」といったことが起こり、復旧活動や生活に大きな影響を及ぼします。

液状化危険度
- 極めて高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い

地図記号の説明等
- 市庁舎
- 警察署
- 消防署
- 病院
- 行政界
- 鉄道
- 主要道路（国道・県道・主要地方道）
- 高速道路
- トンネル
- 河川・池等の水域



この地図は三重県防災対策部公表（平成25年度地震被害想定調査）の「震度予測分布図」と「液状化危険度予測分布図」に基づき作成しています。
この地図は三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2017 三重県共有デジタル地図（数値地形図縮図10,000）」を使用し、調製したものです。（承認番号：三総合地第52号）本成果を複製あるいは使用して地図を調製する場合は、同組合の承認を必要とします。

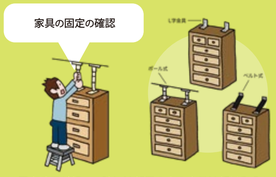
南海トラフ地震臨時情報について

南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについて気象庁から発表される情報です。

キーワード	キーワードを付記する条件
南海トラフ地震 臨時情報（調査中）	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの巨大地震と関連するかどうか調査を開始した場合、又は調査を継続している場合
南海トラフ地震 臨時情報（巨大地震警戒）	**想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合**
南海トラフ地震 臨時情報（巨大地震注意）	**想定震源域又はその周辺でモーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合（プレート境界のモーメントマグニチュード8.0以上の地震を除く） 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合**
南海トラフ地震 臨時情報（調査終了）	巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれでもなかった場合

● 南海トラフ地震臨時情報発表時にみなさんがとるべき行動

家具の固定の確認



巨大地震が起きた時には部屋の中の家具は軒並み倒れてしまいます。家具の下敷きになって身動きがとれなくなったり、出口をふさいでしまうことも。しっかりと固定しておきましょう。

家族の安否確認手段の把握

災害用伝言ダイヤルやスマートフォンの防災アプリがあれば災害時に家族と連絡を取ることも難しくありません。公衆電話の場所も確認しましょう。

非常持ち出し品の確認

避難するときに持ち出す非常持ち出し品は必要最低限の道具や食料を用意します。感染予防のためのマスクや手袋、乾パンやレトルト食品、貴重品も忘れないようにしましょう。

避難場所・避難経路の確認

緊急避難で逃げる指定緊急避難場所（一時避難場所）や災害で自宅に住めなくなった際に一定期間生活する指定避難所への安全な経路を確認しましょう。

津波について
亀山市においては**津波到達による事前避難対象地域はありません**ので、基本的に情報が発表されても即座に避難所は開設されません。

南海トラフ以外にも存在する地震の危険

直下型地震（養老-桑名-四日市断層帯）

発生する確率
30年以内に
ほぼ0～0.7%

※地震調査研究推進本部（地震本部）が公表している「活断層の長期評価」によると、過去の地震発生前の30年以内発生確率では、2016年熊本地震は「ほぼ0～0.9%」、2018年北海道胆振東部地震は「0～0.2%」となっていました。これらのことから、**三重県の断層帯の地震発生確率は決して低い数字ではありません。**

養老-桑名-四日市断層帯は、岐阜県垂井町から三重県桑名市を経て四日市市まで伸びる断層帯です。

日本に多数ある活断層の中でも、今後30年間に巨大地震が発生する可能性がやや高い部類に入ると言われており、この地震が発生すると、亀山市の東部では南海トラフ地震よりもさらに広い範囲で震度6強の揺れが起こる可能性があります。

亀山市に被害を及ぼすと考えられる直下型地震の原因となる活断層は他にもありますので、「三重県防災ガイドブック」等も参考にしてください。

亀山市で被害が予想される主な直下型地震

断層帯等名称	予想される地震の大きさ	亀山市予想最大震度	30年以内の地震発生確率
養老-桑名-四日市断層帯	マグニチュード8．0程度	6強	ほぼ0%～0．7%
頓宮断層	マグニチュード7．3程度	6弱	1%以下
鈴鹿東縁断層帯	マグニチュード7．5程度	6強	ほぼ0%～0．07%

三重県の断層帯について、詳しくは「防災みえ.jp」をご覧ください。
URL:http://www.bosaimie.jp/static/X_MIE_mhd00

防災みえ.jp
←QRコードはこちら